

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

2017年10月2日
第1号（通算第7号）
教育指導課教育課程係

H29アクティブ・ラーニング普及支援事業について

仙台市教育委員会では、市内小・中学校の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進するため、平成28年度から各行政区に「拠点校」を設けています。拠点校は、研修会や研究授業の公開等を通じて自校の成果や知見を他校へ提供するなど、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進役となるような取組を行っています。

〔平成28～29年度指定の拠点校〕

【小学校】 ・広瀬小（青葉区） ・六郷小（若林区） ・高砂小（宮城野区）

【中学校】 ・五橋中（青葉区） ・八木山中（太白区） ・加茂中（泉区） ・南光台中（泉区）

拠点校での研修会や研究授業の様子等、本事業に関する情報を今年度も本紙を通じてお知らせします。

「考え、議論する道徳」に向けた研修会

■ 仙台市立加茂中学校

■ 仙台市立南光台中学校

8月9日（木）、仙台市立加茂中学校（行場啓悦 校長先生）を会場に、「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の視点に基づき、「考え、議論する道徳」の授業づくりについて、研修会が行われました。また、8月21日（月）には、仙台市立南光台中学校（遠藤裕子 校長先生）を会場として「道徳の教科化を見据えた授業づくり」をテーマに研修会が行われました。両日とも、仙台市教育センターの大黒知行 指導主事から、講話がありました。

研修会では、道徳教育が抱える課題を受け、特別の教科道徳の指導方法や評価、小中連携のポイント等について、実際の指導場面を想定しながらの具体的な視点が示されました。開催校の先生方のほか、泉区内小・中学校や他の拠点校の先生方も参加され、熱心に耳を傾けていました。

「考え、議論する道徳」のポイント

1. 道徳科の指導方法の質的変換

- ・押しつけ道徳からの脱却（主体的な学びへ）
- ・読み物資料依存からの脱却（対話的な学びへ）
- ・単なる話し合いからの脱却（深い学びへ）

2. 授業において大切にしたいこと

- ・価値理解、人間理解、他者理解のバランスを考え、これらを考える場面や活動を設定する。
- ・考える時間や書く時間は十分に確保する。

（書いたり考えたりすることに時間の掛かる児童・生徒や発言することが苦手な児童・生徒には配慮が必要）

※「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、基盤となる学級経営の充実が大変重要である。



過去の優れた学習方法からアクティブ・ラーニングを考える

■ 仙台市立高砂小学校（研修会）

講師：吉村敏之 氏（宮城教育大学教職大学院教授）

8月23日（水）、仙台市立高砂小学校（佐々 孝 校長先生）を会場に、「アクティブ・ラーニングをふまえた授業づくり・学級づくり」をテーマに校内研修会が行われました。当日は、宮城教育大学教職大学院教授の吉村敏之先生を講師にお迎えし、群馬県島小学校（現在の伊勢崎市）における、斎藤喜博校長先生（後に宮城教育大学教授）の「未来につながる学力」の形成に向けた実践（1952年～1963年）に学びながら、主体的・対話的で深い学びの目指すもの、指導の実際等について研修を行いました。研修の中では、冒頭で「主体的・対話的で深い学び」を実現する3つのポイントを確認しました。

- 子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な学びの在り方であること。
- 創意工夫に基づく指導方法の不断の見直しと授業研究であり、特定の指導方法ではないこと。
- 学びという営みの本質を捉えること。



また、斎藤喜博校長先生の実践の一端が紹介され、我が国のこれまでの教育実践の蓄積に基づく、優れた学習方法を見直し、若手教員にもしっかりと引き継ぎながら授業改善を図っていくことの大切さについてもお話がありました。

後半では、斎藤喜博編『島小の授業』で示された理論と方法を踏まえて、ミニ演習が行われ、新美南吉の詩「島」の解釈を深め、子どものイメージが広がる授業の展開を考えました。参加された先生方は、教材の解釈についてお互いの考えを比較しながら、授業イメージを膨らませていました。



★研修会のアンケートから★

- 自分の道徳の授業は副読本を使用した『心情理解』に終始していたように思う。また道徳に対しては、足かせのないいいイメージがなかったが、今後の授業に自信と意欲を持って取り組んでいけるモチベーションが高まった。（8/9 加茂中受講者）
- 新学習指導要領に向けて不安や浮き足立つ必要が無いことが確信できて安心した。すべての基本は教材に誠実に向き合うことだと再確認した。（8/23 高砂小受講者）